

2026年5月14日

YACかわら版709

海面上昇

第48回南極条約協議国会議（ATCM48）が、32年ぶりに日本で開催されています。開催期間は2026年5月11日～21日です。

この会議に関連して多くの報道に触れる機会があります。その中で海面上昇に関して、改めて関心を持ちました。

海面上昇についてNASAの観測データを調べてみました。それによれば地球の海面は上昇し続けています。海面上昇速度も、1993年の年間0.20cmから今日では年間0.44cmになっています。約30年間で約9cm上昇です。地球平均海面上昇の主な原因は、地球温暖化による陸上の氷床や氷河が溶けるのと海水の温暖化による膨張（ぼうちよう）だといいます。

YACかわら版で、冰山A23を追っていました。BBCの2023年12月14日の記事によれば、当時のA23の平均の厚さは280m、面積は3,900km²、体積は約1,100km³とあります。位置情報 -62.02, -52.23

<https://www.bbc.com/news/science-environment-67694164>

当時のA23は、一辺の長さが約10.32kmの氷の立方体の氷のかたまりとみなすことができますが、海に浮いている冰山なので溶けても影響ありません。一方南極のすべての氷が溶けると、世界の平均海面は約58～70m上昇するとも推定されています。

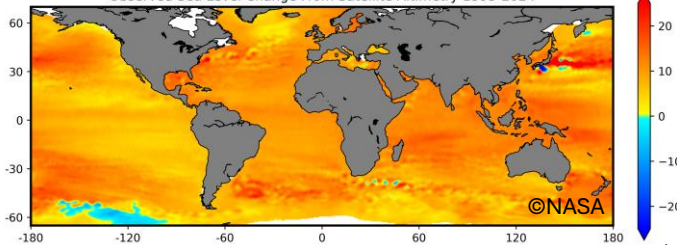
海面上昇の影響を受ける日本の沿岸の様子を、国土地理院のウェブサイトで探ってみることにしました。自分で色別標高図をつくることもできます。

国土地理院地図 <https://maps.gsi.go.jp/>

トップ>標高・土地の凹凸>自分で作る色別標高図

1993年から2024年までの世界の海面高の変化

Observed Sea Level Change From Satellite Altimetry 1993-2024

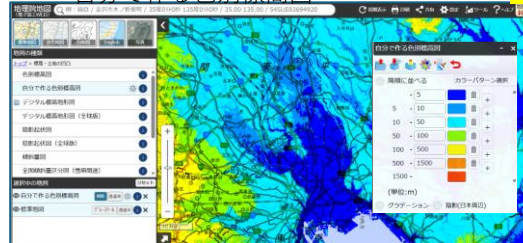


<https://sealevel.nasa.gov/understanding-sea-level/key-indicators/global-mean-sea-level/>

標準地図



自分で作る色別標高図



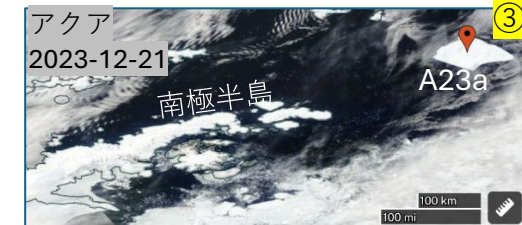
国土地理院ウェブ地図では、能動的に標高を意識することができます。海面の色は変更できませんが、標高の間隔を設定できます。

- ・標高が海面より低い場所 ⑤-2
 - ・海面が9m高くなると海面より低くなる場所 ⑤-3
- 全国どの地域でも確認できます。

南極条約とは南極地域の平和的利用、国際協力、核爆発や放射性廃棄物の処分の禁止を基本原則とし、同地域を国境のない平和な理想郷とすることを目標とし、1959年に採択されました。

南極条約協議国会議（ATCM）とは条約を締約している58か国のうち、南極に基地を設けるなど積極的に科学的調査活動を実施している、日本を含む29の協議国が情報の交換、国際協力の促進等について協議する会議で、各協議国が持ち回りで主催しています。

<https://nankyoku-hiroshima.com/>



共有URL <https://go.nasa.gov/4diBgxG>

